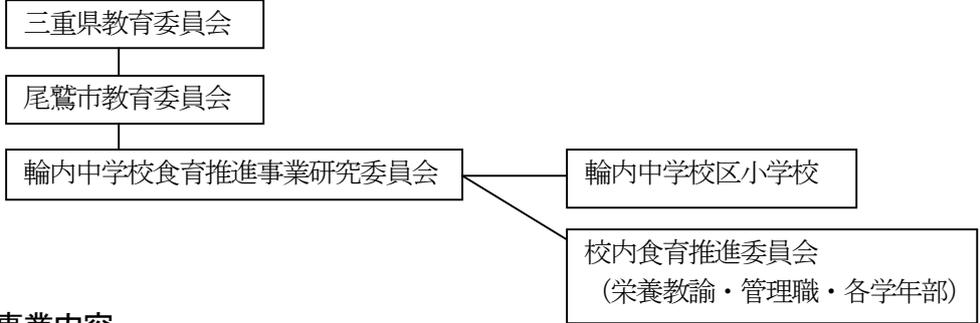


再委託先名

尾鷲市

1. 事業推進の体制



2. 事業内容

テーマ1

学校における食に関する指導の充実のための取組について

- ・日々の学校給食におけるメニュー・栄養等の表示活動 生徒会給食委員会の活動
- ・月に一度の地元水産資源を活用しての学校給食における地産地消活動の実施及び取り組み紹介、広報誌の発行
- ・地元水産資源を活用しての家庭科調理実習の実施（魚ごはん、大敷汁作り）
- ・学校水田作りと餅米栽培の実施
- ・学校花壇を活用してのエゴマ・サツマイモ作り実施
(餅米・エゴマ・さつまいもは地元伝統食のエゴマ餅づくりを12月に実施)
- ・地域の方々から直接学ぶ機会を通し、地域の店頭で販売されている水産加工物が、どのような流通、生産過程を通じて自分たちの家庭に届けられているか、また、地元水産資源を加工し伝統食文化を継承している方々の思いにも触れることができ、地域を見つめ直す地域学習としての位置づけが図られてきた。
- ・技術家庭科の教科学習における「栽培」領域と関連づけ、校内に学校水田、学 校畑を自分たちの手で設置し、水稻栽培（餅米づくり）、エゴマ・さつまいも栽培に取り組み、収穫物を利用しての当地域の「エゴマ餅」作りにも取り組んできた。この一連の活動においても、地域の高齢者の方々の知恵と力を提供して頂き、高齢者の方々から地域伝統食文化を学ぶ機会となった。



(学校水田での稲作り)



(学校菜園でのさつまいも)



(学校菜園でのエゴマ)



(エゴマ餅作り)

テーマ2

地域と連携した食に関する指導の充実のための取組について

地元水産資源を活用した食育推進取り組みの充実

- ・地元漁港における地域との協働による地域伝統食文化の小鯖のあぶり作り取組
- ・地元漁港における地域との協働による地域伝統食文化の小鰯のミリン干し作り取組（上記、生産物の学校給食での試食活動）
- ・地元漁港に於ける小鰯釣りと、釣り上げた小鰯の二度揚げによる唐揚げ作りと試食会(全校)
- ・地元水揚げ物（するめイカ・沖ギスの混合）による新メニューの開発及び学校給食での試食
- ・地元漁港におけるスルメイカの一夜干し、秋刀魚の丸干し作りと学校給食での試食

伝統食文化の体験学習での製作品を学校給食に生かし、自分たちで一部調理に関わるという活動を取り入れた学校給食活動の展開へとつなげてきた。生徒たちの地域での体験活動、また調理参加型給食への感想は100%、「楽しい・おいしい、また活動したい」との回答であり、前述の「食（活動）は楽しい活動である」という意識をさらに高めるこ

とが出来たと感じている。



(小鯖のあぶり作り)



(小鰯のみりん干し作り)



(小鰯の唐揚げ作り)



(いかの一夜干し作り)



(さんまの丸干し作り)

テーマ3

校区小学校との連携による食育推進の取組

・輪内中学校修学旅行における体験活動（沖縄伝統食のサーターアンダギー作り）で、学んだ生徒による校区3小学校における出前講座（サーターアンダギー作り）を展開し、高学年児童とともに、食育体験を楽しむ機会を設置。



(校区内小学校でのサーターアンダギー作り)

テーマ1～3に共通する具体的計画

・水産資源の活用の調査研究し、食育体験活動にいかす。

本事業における評価指標と考察

- ・本校食育推進事業に関する全校生徒及び関連小学校児童対象のアンケート結果の90%以上の「楽しかった」「おいしかった」「これからも食育体験事業に取り組みたい」との回答率達成。
- ・地元水産資源加工業者、地元漁連等からの今後も食育推進事業への協力・支援体制づくりの推進度。

本事業の成果

- ・これまでの事業に於ける児童・生徒対象のアンケートより、楽しい、おいしい、またやりたいといった回答が90%を超えている。また学校給食での試食等においても完食状況にある。
- ・アンケート内容の記述式部分では、具体的にこうした取り組みがしたい、こんな活動はできないか等の要望も多く記載され、食・食育に関する生徒の興味・関心が高まりつつあることを感じる

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

- ・水産資源等を活用しての食育推進を進めてきたが、自然を対象(水産資源)であり、水揚げがない、遅れる等々の課題が発生し、計画通りに進めず、急遽予定変更を余儀なくされ、予算変更等の必要性も発する。当初計画通りの計画、予算案の弾力的運用が可能となる事業でなければ、実施はかなり困難なものであるという反省を持っている。
- ・本校としては学校での「食育」＝「給食の完食」(好き嫌いせず何でも食べる)というイメージから、「食」＝「楽しい活動」という思いを生徒一人ひとりにさらに実感させていくとともに、地域の食文化について興味・関心を高め、地域を見つめ直す学習の場として位置づけていきたいと考えてきたが、本年度取り組みを通し、生徒の活動の様子や、感想また保護者の方々の理解、支援状況より一定の達成が図れたと考えている。しかし、「食(活動)」は、毎日、継続されるものであり、本年度、文科省事業「栄養教諭を中核とした食育推進事業」は終結するが、本校としては当事業をきっかけに今後も本校独自の食育活動として展開していきたいと考えている。